

1. 科目名 ( 単位 数 )	異文化コミュニケーション教育 ( 2 単位 )	3. 科目番号	EIJP2171
2. 授業担当教員	牧野 圭二郎		
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>異文化コミュニケーションは、異文化環境下でのコミュニケーションや文化背景が異なる者同士によるコミュニケーション事象などを対象としている。グローバル化の進む国際社会では、越境する人々によって教育環境も多様化し、異文化コミュニケーションの機会は増加している。</p> <p>本講義では、教育場面での異文化の対人関係を取り上げながら、教育の現状や文化とコミュニケーションの関係、またその影響や対応などについて考えていく。</p>		
8. 学習目標	<p>1. 文化とコミュニケーションの関係について理解することができる。</p> <p>2. 多様な教育環境について理解することができる。</p> <p>3. 教育場面における文化の影響について理解することができる。</p>		
9. アサイメント ( 宿題 ) 及びレ ポート課題	<p>1. 学習課題の事前学習と事後学習を行うこと。</p> <p>2. 授業内課題は授業の終わりに提出すること。</p> <p>3. 発表の ppt ファイルを第 13 回授業日までに提出すること ( 発表とともに評定方法「3. 試験・レポート」として評価)。</p>		
10. 教科書・参考 書・教材	<p>【教科書】なし</p> <p>【参考書】授業内で適宜伝える</p> <p>【教材】都度授業資料を配布する</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準 ( 学習目標 )</p> <p>1.文化とコミュニケーションの関係について理解することができたか。</p> <p>2.多様な教育環境について理解することができたか。</p> <p>3.教育場面における文化の影響について理解することができたか。</p> <p>○評定方法</p> <p>以下の点を総合的に評価する。</p> <p>1.授業態度 総合点の 30% : 積極的な参加、課題の提出状況などにより評価。</p> <p>2.グループ・ワーク 総合点の 30% : 共同作業での発言、役割貢献などにより評価。</p> <p>3.試験・レポート 総合点の 40% : 基礎知識の理解、自身の意見の表出の程度により評価。</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得は原則として認められない。</p>		
12. 受講生への メッセージ			
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 異文化理解の意義、異文化とは	事前学習	異文化についてイメージする
		事後学習	資料を読み返し、重要点を整理しておく
第 2 回	文化とは 文化の氷山モデル、トータルカルチャーとサブカルチャー	事前学習	日本文化について調べる
		事後学習	資料を読み返し、重要点を整理しておく
第 3 回	違い 行動、視点、環境による文化の違い	事前学習	文化の違いとは何か考える
		事後学習	資料を読み返し、重要点を整理しておく
第 4 回	まとめ① 「文化」に関する経験を話し、グループでディスカッション	事前学習	「文化」に関する経験をまとめる
		事後学習	文化に関する経験を省察し、ディスカッションの内容と共にまとめる
第 5 回	異文化の認識 固定観念、ステレオタイプ	事前学習	自分の中にある固定観念、ステレオタイプを言語化しておく
		事後学習	資料を読み返し、重要点を整理しておく
第 6 回	差別を考える 差別の種類、差別が生まれる背景	事前学習	
		事後学習	資料を読み返し、重要点を整理しておく
第 7 回	価値観 個人主義と集団主義、高文脈文化と低文脈文化、モノクロニックとポリクロニック	事前学習	自分がどのような価値観を持っているか考える
		事後学習	資料を読み返し、重要点を整理しておく
第 8 回	まとめ② 異文化、差別、価値観の違いについて、自分の経験を話し、グループでディスカッション	事前学習	異文化、差別、価値観の違いについて経験をまとめる
		事後学習	自分の経験とディスカッションの内容をまとめる
第 9 回	異文化受容 異文化受容に関する 5 つの段階	事前学習	自分が異文化をどのように受容しているか考える
		事後学習	資料を読み返し、重要点を整理しておく
第 10 回	非言語コミュニケーション	事前学習	自分がどのような非言語コミュニケーションをするのか理解する

